

光受寺通信

NO.187

R6・8・1 発行
発行元 光受寺



光受持通信も発行し始めて15年以上、ブログを書き始めてすでに950件以上を投稿しています。ここでは私にとっては懐かしいブログの一つを紹介します。

(一部手直したところがありますが、ほぼ原文通りになっています。)

タイトル・・・「幼子の訪問」



最近、祖母かと思われる方が幼子を連れてお参りにいらっしやるところをよく目にするようになった。

どうやら光受寺にご縁のある方のように、お天気が良いと孫を連れて、お散歩を兼ねての参詣らしい。

それは2歳ほどの男の子であるが、おばあちゃんの真似をして手を合わせ、頭を下げる。そのあまりのかわいらしさに、こちらも思わず合掌してしまう。

この子にとって、時々のお参りの姿は、無自覚の単なる無邪気なしぐさかもしれないが、祖母にとっては深い願いが込められているように私には映る。

山門を出る時には、本堂を振り返り、おばあちゃんに頭を押さえられ、ピヨコンと頭を下げていた。

いつか人生の苦しみ、悲しみに出会うことがあるであろう

うこの幼子が、再びこの門を訪ねてきてくれる日はくるのであろうか。優しいまなざしで見つめる祖母の姿に、深い願いが込められているように私には思われた。

かつて私の祖母もかつてそうであったように…
かけがえのない命と命のつながりがここにはあった。

心に沁みるお文さん

(第一条の通)

そもそも当年の夏の頃は、なにとやらん、ことのほか睡眠におかされてねぶたく候うは、いかんと案じ候えば、不審もなく往生の死期もちかつくかとおぼえ候う。まことにもってあじきなく、名残惜しく候え、

と始まり、

と続きます。

なにごは、

明日も知らぬいのちにてこそ候うに、なにごとももつすもいのちおわりそうらわば、いたずらごとにてあるべく候う。いのちのうちにて、不審もとくとくはれられそうらわでは、さだめて後悔のみにてこそうらわんぞとぞ。御にこそえあるべく候う。あなかしこ、あなかしこ。と締めへんらわてつきます。

このお文さんが書かれたのは、文明5年4月25日(暦月でいえば夏)に、石川県の吉崎御坊で書かれたもの思われます。蓮如上人が御坊を退出される2年前の59頃に書かれたということになります。

今でいう還暦を迎える前年ということになるかと思いますが、人生50年といわれる時代にあつて、ご自身の死期を感じられ、「味気なき、名残惜しさ」を感じられるのですが、それでも「念願のみが昼夜途切れることなく、心に湧きおこってくる」と自省されています。それは私の心そのものでもあると思われました。そして、「明日をまわからぬ命であることから、命のあるうちに往生を願ひその思いを成し遂げなさいと教示され、締めへんらわてつきます」。

―猛暑の中、多くの参加をいただきました―

まもなく梅雨明けかと思われる快晴の一日。朝から気温が高く、この分には参加者もきつと少ないだろうと思っただけでしたが、意外にも多くの方にご参加をいただくことができました。

確かにいつもよりは少々、少ないようでしたが、16名の方にご参加いただくことができました。

今回は地獄・極楽の「極楽」についての話でしたが、当院若院が、絵本をもとに、プロジェクターを使って、説明してくれました。また、その内容の説明は、会話形式で行われ、孫二人を含め家族全員の役割分担のもと音声入りで行ってくれました。

昨今では聞く機会もない、地獄極楽の世界の話だったことから、どこか新鮮な感じで聞くことができました。



今月の掲示板

雑にするから

雑用になる。

雑草という草もなく、雑魚という魚もない。だから雑用という用事もないのです。それは、**どつでもよいと思っ**気持ちが生み出すからです。江田 智昭

私たちは無意識のうちに事の軽重を決めてしまっているようです。それが命の軽重にまで至ることの恐ろしさを覚えるのです。

この花、何の花かご存じですか？

私が育てている野菜の花です。(いつも新鮮な感動を与えてくれます)。

今まではそれほど関心をもって見つめたことはないのですが、自分で家庭菜園を始めてからその美しさに惹かれるようになりました。とりわけ胡蝶蘭にも似た黄色い花は愛らしく思っています。

それぞれに個性的で、見つめていても飽きることはありません。ほかにも多くの野菜があるのですが、あの野菜はどんな花だったかな。と思いつくとしてもなかなか思い出すことはできません。何気なく見ているだけなのでしょうね。



この愛らしが何とも言えません。

例えば、茄子の花は？きゅうりは？と聞かれれば比較的想像がつき説明しやすいかもしれませんが、だいこんの花や、蕪の花などは気に留めたこともありませんし、ましてやサツマイモの花や、里芋の花はと聞かれても想像すらできません。

今回自分で野菜を育ててみて、この花たちに会い、ほんやりと生きている自分に気づかされたことでした。

- 右上 なす 落花生
- 左上 ミニトマト 左下 ししとう

お知らせ

お寺サロン

8月・9月はお休みします。

(10月より再開)

光受寺学習会

8月はお休みします。

(9月より再開)

新聞原稿募集中！

……内容は自由です。ご協力よろしく
願います。